

お知らせ（2011年8月10日）

DKSH ジャパンが、世界的な恒温槽メーカー、ラウダ社（ドイツ）から優秀新規エージェント賞を受賞しました

DKSH ジャパンは2009年10月からラウダ製品の取り扱いを開始し、わずか数ヶ月後の2010年月上旬から販売台数を大幅に拡大させ、2010年度にラウダ製品の日本市場での年間販売台数の記録を更新しました。

この成績が評価され、DKSH ジャパンはラウダ社の優秀新規エージェント賞を受賞しました。また、7月5日にはドイツにてDKSH ジャパン代表取締役社長のペーター・ケメラー（Dr. Peter Kaemmerer）が、ラウダ社のグンター・ウォブサー社長（Dr. Gunther Wobser）と会談し、受賞の記念となる盾を授与されました。

ラウダ製品の売り上げの拡大は、DKSH ジャパンによる製品取り扱い開始後、プロセス分野での販売促進に注力した結果、医薬品業界をはじめとする国内製造業企業から高く評価され、導入が進んだことで実現しました。2011年は、半期（1月～6月）ですでに2010年の販売実績に達しており、更なる飛躍が確実視されています。

ラウダについて

ラウダは、高性能な恒温水槽、チラー、粘度計、表面張力計などの世界的なメーカー。一般的な恒温実験や研究開発・品質管理・生産機器まで高度な温度管理技術を実現する装置を提供しています。

DKSH ジャパンについて

DKSH ジャパンは日本における最初の外資系商社の一つとして1865年（慶応元年）に横浜で創業した「シイベル・ブレンワルド商会」を継承し、以来140年以上にわたって、日本とその文化に貢献してきました。当時「横浜甲90番館」と呼ばれた商館は日本の生糸取引の中心となり「生糸王国日本」を築き上げる上で大きな役割を果たしました。また、日本最初のガス灯のためのガスプラント設置にも貢献し、明治中期には時計・機械などの輸入を開始するなど、日本に根ざしたスイス系商社として多くの足跡を残してきました。

また、ヨーロッパとアジアという二つの文化の間で調整役を担いながら、お客さま、ビジネスパートナーの皆様からの変化し続けるニーズにお応えし、質の高いサービスをご提供することを目的としてきました。

2009年4月に社名を日本シイベルヘグナーからDKSH ジャパンに改め、スイスに本社を置くDKSH グループの一員として、日本では消費財、生産資材、テクノロジーの3つの事業部門でビジネスを展開しています。

本件に関するお問合せ：

DKSH ジャパン株式会社

コーポレート・コミュニケーション

長谷川 崇

〒108-8360 東京都港区三田 3-4-19

Phone 03-5730-7342 Fax 03-5730-7333

www.dksh.jp